

御殿場市

地形概況

富士火山東斜面と裾野、御殿場泥流による山麓扇状地、箱根火山外輪山の西斜面と丘陵、黄瀬川谷底低地、大野原溶岩原などからなる。泥流堆積物の斜面には湧水を水源に水系が発達し、下刻も進んだ。二つ塚・宝永山など寄生火山も多い。

地質概況

東部は箱根火山の古期外輪山で、玄武岩や安山岩質溶岩凝灰集塊岩が成層している。西部の富士火山の古期玄武岩質溶岩は山麓に、新期溶岩が中腹から山麓に分布し、黄瀬川河谷にそって流出した。この地域は御殿場泥流火山灰・火山砂礫層が広くおおっている。

気象概況

年平均気温が 12.2°C と県内の市街地では最も低温で、8 月に 20.2°C で 1 月に -2.5°C と年較差が小さい。年平均降水量は 3,055mm と県内でもずば抜けて多く、月平均降水量が 100mm 以下は冬季 2 か月である。年平均日照時間数も 1,987 時間で沿岸地域の 80% と少ない。

災害事例 地震

- 1944 年 12 月 7 日 (昭和 19 年) 東南海地震 M=7.9
県中・西部では大被害があったが、東部・伊豆ではほとんど被害がなかった。震度は 4 であった。
- 1930 年 11 月 26 日 (昭和 5 年) 北伊豆地震 M=7.3
荒廃林地 1 町歩の被害があった。
- 1923 年 9 月 1 日 (大正 12 年) 関東地震 M=7.9
東京・横浜を潰滅させた大地震であるが、当地でも御殿場町で 12 人、高根村で 7 人の死者が出、また家屋全潰御殿場町で 301 戸(20.2%)、原里村で 8 戸(1.2%)、玉穂村で 9 戸(2.8%)、富士岡村で 19 戸(2.7%)、印野村で 14 戸(5.5%)、高根村で 108 戸(25.4%) などかなりの被害を生じた。
- 1853 年 3 月 11 日 (嘉永 6 年) M=6.7
小田原付近の地震で、当地でも損所ありという。
- 1782 年 8 月 23 日 (天明 2 年)
小田原・箱根付近を中心とする地震、当地でも井堰破損崖崩れなどを生じた。

災害事例 火山

- 1707 年 12 月 16 日～31 (宝永 4 年) 富士山宝永噴火
宝永地震後約 50 日に富士山が噴火し宝永山を形成した。その際の降灰量は、柴怒田 6～7 尺、中畑・仁杉・水土野新田 4.5～7 尺、増田・小尾田・清後・川柳新田・六日市場・上小林・山之尻・大堰・中丸 3～5 尺に達した。

災害事例 台風

- 1979 年 10 月 19 日 (昭和 54 年) 台風 20 号
全県下に被害があり、当地では死者 3 人、負傷者 70 人、床上浸水 76 戸、床下浸水

743 戸、道路決壊 17 箇所、堤防決壊 101 箇所を生じた。最大時間雨量は 77mm(19 日 14 時)である。

- 1959 年 8 月 13 日 (昭和 34 年) 台風 7 号
中部以東に被害が出た。御殿場の 13 日の日雨量は 314mm(12~13 日両日で 432mm)であった。
- 1948 年 9 月 16 日 (昭和 23 年) アイオン台風
全県下風水害となり、とくに中部以東で被害が大きかった。御殿場で日雨量 370mm に達した。
- 1914 年 8 月 29 日 (大正 3 年)
29 日午後から暴風雨。御殿場の日雨量 321mm。
- 1914 年 8 月 12 日 (大正 3 年)
12~13 日暴風雨。雨量は安倍川流域・東部・伊豆地方で多く、御殿場の日雨量 12 日 355mm であった。
- 1676 年 9 月 19 日 (延宝 4 年)
大風雨で潰家被害が御厨で 17 戸、小田原領で 371 戸生じた。また御厨で 1 人が死亡している。
- 1656 年 9 月 10 日 (明暦 2 年)
大風雨、御厨の被害 1587 戸、死者 8 人であった。
- 1655 年 9 月 9 日 (明暦元年)
大風雨、御厨領で家 97 戸が吹倒された。小田原領でも、209 戸(112 戸ともいう)が倒れた。

災害事例 旱魃

- 1771 (明和 8 年)
この年晴天が続く旱魃となり、小田原の松原明神で雨乞祈禱が行なわれた。
- 1770 (明和 7 年)
4 月から 10 月まで水日照りが続く。明和の大飢饉(干害飢饉)。百姓共が領主・地頭の門前に押しかけることを禁ずの触書が出る。

災害事例 冷害

- 1836 (天保 7 年)
7 月ごろに長雨が続く、郡中一同で日和乞をするほどの凶年で、米価は平均の 3 倍以上に急上昇した。